国語復習プリント古文③（敬語・識別の復習）

１　傍線部の敬語の種類を答えなさい。

①　「いかなる所にか、この木はさぶらひけむ。」

②　徳大寺にもいかなる故か侍りけん。

③　御などをつかはしつつありさまを聞こしめす。

④　かかる雨なればくちをしとなげかせ給ふ。

⑤　の、例の狩しにおはします。

⑥　「夜いたうふけぬれば、過ぐさず御返り奏せむ。」

⑦　やがて、のうちに入れたてまつり給ふ。

⑧　大納言、中将、松君て参り給へり。

⑨　かぐや姫、「もの知らぬこと、なのたまひそ。」とて、

⑩　身をすてて、をつき祈り申すほどに、

⑪　人の心劣れりとは思ひはべらず。

⑫　（匂宮ハ）それよりぞ御馬にはたてまつりける。

⑬　心づかひして、をばめたてまつりて、

⑭　岩がくれのの上にみゐて、かはらけまゐる。

⑮　にむまの、まゐる。

⑯　（聖ガ光源氏ニ）などまゐるほど、

⑰　「（宣耀殿ノ女御ニ）父大臣の教へａ聞こえｂ給ひけることは、」

⑱　（中宮定子ハ）ものなどａ仰せｂられて、「我をば思ふや。」と問はせ給ふ

２　次の傍線部の敬語が、誰に対する敬意を表しているか答えなさい。

①　かぐや姫かたちの世に似ずめでたきことを、聞こしめして、のふさこにのたまふ。

②　大将こそ、宮抱き奉りて、あなたへゐておはせ。

③　上おはしますに、御覧じていみじうおどろかせ給ふ。

④　の親王、例のしにおはします供に、のなる、つかうまつれり。

⑤　少将（俊寛ニ）「まことにさこそはａおぼしめされｂ候ふらめ。」

⑥　（帝ハ）一の宮を見ａ奉らｂせ給ふにも、若宮の御恋しさのみ思ほし出でつつ、

⑦　（大納言ガ）御鷹の失せたる由をａ奏しｂ給ふ時に、帝ものものたまはず。

３　次の傍線部を口語訳しなさい。

①　御簾の前にて人にを語りはべらむ。

②　ただこの西おもてにしも、持仏据ゑ奉りて行ふ、尼なりけり。

③　まだ唐の御衣も奉りながらおはしますぞいみじき。

④　心地もまことに苦しければ、物もつゆばかりまゐらず、

⑤　「姫宮の御前の物は、例のやうにてはにくげにさぶらはむ。」

⑥　帝、なほめでたく思しめさるること、せきとめがたし。

⑦　「月ごろは、思ひたまふる事ありて、殿に伝へ申させ侍りしかば、」

⑧　また聞けば、侍従の大納言の御女なくなり給ひぬなり。

⑨　「龍の頸の玉をえ取らざりしかばなむ、殿へもえ参らざりし。」

⑩「わが丈立ちならぶまで養ひたてまつりたる我が子を、なにびとか迎へきこえむ。」

４　傍線部を文法的に説明しなさい。

①　戌の時も過ぎぬべし。

②　のうちに鳴かぬぞいとわろき。

③　あるいはおのが家にこもりぬ。あるいはおのが行かまほしき所へいぬ。

④　しのびたるけはひ、いとものあはれなり。

⑤　ただ一人、ねぶたきを念じてさぶらふに、「つ」とすなり。

⑥　この子いと大きになりぬれば、名を、の秋田を呼びて、つけさす。

⑦　この吹く風はよきの風なり。

⑧　御送りして、とく往なむと思ふに、賜ひ、禄賜はむとて、遣はさざりけり。

⑨　橋を八つわたせるによりてなむ、といひける

⑩　高砂の尾の上の桜咲きにけり外山のかすみたたずもあらなむ

⑪　まめまめしきものは、まさなかりなむ。

⑫　はつる暁までたたく音もせず、

⑬　などかうは泣かせ給ふぞ。

⑭　老いらくの来むと知りせば門さしてなしと答へて会はざらましを

５　傍線部の文法的説明を次のア～ウから選びなさい。

①　が、寝たる足をに食はる。

②　かくとだにえやはいぶきのさしも草さしも知らじな燃ゆる思ひを

③　人の才能は、文あきらかにして、の教を知れるを第一とす。

ア　受身・尊敬・自発・可能の助動詞「る」の終止形

イ　完了・存続の助動詞「り」の連体形

ウ　動詞の連体形活用語尾の一部

６　傍線部の文法的説明を次のア～カから選びなさい。

①　さは翁丸にこそはありけれ。

②　秋にはをさをさ劣るまじけれ。

③　秋の野をにほはす萩は咲けれども見るしるしなし旅にしあれば

④　また、かねて思ひつるままの顔したる人こそなけれ。

⑤　めでたしと見る人の、心劣りせらるる本性見えんこそ口惜しかるべけれ

⑥　見に行かまほしけれど、さらに道も覚えず。

ア　過去の助動詞「けり」の已然形

イ　形容詞の已然形活用語尾

ウ　推量の助動詞「べし」の已然形の一部

エ　打消推量の助動詞「まじ」の已然形の一部

オ　希望の助動詞「まほし」の已然形の一部

カ　四段動詞の已然形活用語尾＋完了の助動詞「り」の已然形（命令形）〉

７　傍線部の文法的説明を次のア～エから選びなさい。

①　いま一度おこせかし。

②　のあたり珍かなりしことなり。

③　書きけがしたりなどしたるあり。

④　しまがくれゆく舟をしぞ思ふ

ア　サ変動詞「す」の連用形

イ　過去の助動詞「き」の連体形

ウ　強意の副助詞「し」

エ　強意の終助詞「かし」の一部

８　傍線部の文法的説明を次のア～エから選びなさい。

①　まことの神の助けにもあらむを、

②　風吹けば沖つ白波立田山にや君が一人越ゆらむ

③　わが身のやんごとなからんにも、

④　いはんや劣れらん身にて、

ア　推量の助動詞「らむ」

イ　動詞の未然形活用語尾＋推量（意志）の助動詞「む」

ウ　形容詞の未然形活用語尾の一部＋推量（婉曲）の助動詞「む」

エ　完了（存続）の助動詞「り」の未然形＋推量（婉曲）の助動詞「む」

国語復習プリント古文③　解答用紙　　　　年　　　組　　名前

１

①　［　　　　　　　］　②［　　　　　　　］　③　［　　　　　　　］　④［　　　　　　　］

⑤　［　　　　　　　］　⑥［　　　　　　　］　⑦　［　　　　　　　］　⑧［　　　　　　　］

⑨　［　　　　　　　］　⑩［　　　　　　　］　⑪　［　　　　　　　］　⑫［　　　　　　　］

⑬　［　　　　　　　］　⑭［　　　　　　　］　⑮　［　　　　　　　］　⑯［　　　　　　　］

⑰ａ［　　　　　　　］　ｂ［　　　　　　　］　⑱ａ［　　　　　　　］　ｂ［　　　　　　　］

２

①　［　　　　　　　　　　　　］　②［　　　　　　　　　　　　］

③　［　　　　　　　　　　　　］　④［　　　　　　　　　　　　］

⑤ａ［　　　　　　　　　　　　］　ｂ［　　　　　　　　　　　　］

⑥ａ［　　　　　　　　　　　　］　ｂ［　　　　　　　　　　　　］

⑦ａ［　　　　　　　　　　　　］　ｂ［　　　　　　　　　　　　］

３

①［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］　②［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

③［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］　④［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑤［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］　⑥［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑦［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］　⑧［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑨［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］　⑩［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

４

①［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

②［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

③［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

④［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑤［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑥［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑦［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑧［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑨［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑩［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑪［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑫［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑬［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑭［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

５

①［　　　　］　②［　　　　］　③［　　　　］

６

①［　　　　］　②［　　　　］　③［　　　　］　④［　　　　］　⑤［　　　　］　⑥［　　　　］

７

①［　　　　］　②［　　　　］　③［　　　　］　④［　　　　］

８

①［　　　　］　②［　　　　］　③［　　　　］　④［　　　　］

国語復習プリント古文③　解答

１

①　［　丁寧語　　　］　②［　丁寧語　　　］　③　［　尊敬語　　　］　④［　尊敬語　　　］

⑤　［　尊敬語　　　］　⑥［　謙譲語　　　］　⑦　［　謙譲語　　　］　⑧［　謙譲語　　　］

⑨　［　尊敬語　　　］　⑩［　謙譲語　　　］　⑪　［　丁寧語　　　］　⑫［　尊敬語　　　］

⑬　［　謙譲語　　　］　⑭［　尊敬語　　　］　⑮　［　謙譲語　　　］　⑯［　謙譲語　　　］

⑰ａ［　謙譲語　　　］　ｂ［　尊敬語　　　］　⑱ａ［　尊敬語　　　］　ｂ［　尊敬語　　　］

２

①　［　帝　　　　　　　　　　］　②［　宮　　　　　　　　　　］

③　［　上　　　　　　　　　　］　④［　惟喬の親王　　　　　　］

⑤ａ［　俊寬　　　　　　　　　］　ｂ［　俊寬　　　　　　　　　］

⑥ａ［　一の宮　　　　　　　　］　ｂ［　帝　　　　　　　　　　］

⑦ａ［　帝　　　　　　　　　　］　ｂ［　大納言　　　　　　　　］

３

①［　話しましょう　　　　　　　　　　　　　］　②［　持仏を置き申し上げて　　　　　　　　　］

③［　お召しになったままで　　　　　　　　　］　④［　食べ物も少しも召し上がらないで　　　　］

⑤［　見苦しいことでございましょう　　　　　］　⑥［すばらしい（女性だ）とお思いになることを］

⑦［　思っておりますことがありまして　　　　］　⑧［　亡くなられたそうだ　　　　　　　　　　］

⑨［　参上できませんでした　　　　　　　　　］　⑩［　だれがお迎え申し上げようか　　　　　　］

４

①［　強意の助動詞「ぬ」の終止形　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

②［　打消の助動詞「ず」の連体形　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

③［　ナ変動詞「いぬ」の終止形活用語尾　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

④［　形容動詞「あはれなり」の終止形活用語尾　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑤［　推定の助動詞「なり」の終止形　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑥［　ラ行四段動詞「なる」の連用形　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑦［　断定の助動詞「なり」の終止形　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑧［　ナ変動詞「死ぬ」の未然形活用語尾＋意志の助動詞「む」の終止形　　　　　　　］

⑨［　強意の係助詞「なむ」　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑩［　願望の終助詞「なむ」　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑪［　強意の助動詞「ぬ」の未然形＋推量の助動詞「む」の終止形　　　　　　　　　　］

⑫［　サ変動詞「す」の未然形　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑬［　尊敬の助動詞「す」の連用形　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

⑭［　過去の助動詞「き」の未然形　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］

５

①［　ア　　］　②［　ウ　　］　③［　イ　　］

６

①［　ア　　］　②［　エ　　］　③［　カ　　］　④［　イ　　］　⑤［　ウ　　］　⑥［　オ　　］

７

①［　エ　　］　②［　イ　　］　③［　ア　　］　④［　ウ　　］

８

①［　イ　　］　②［　ア　　］　③［　ウ　　］　④［　エ　　］